

優秀賞（愛媛 FC 賞）

「妹の見えない障がい」

四国中央市立川之江南中学校　1年　古川莉緒

私は二歳年下の妹がいます。妹は明るくて元気で、よく笑う子です。でも、妹には ADHD という発達障害があります。ADHD は見た目では全く分からないので、まわりの人から誤解されることがあります。

妹は思ったことをすぐに言ってしまったり、話の途中で急に別の話題に変えてしまったりします。家ではそれで笑いが起こることもあるけれど、外ではそうはいきません。

ある日、妹は学校のお友達と鬼ごっこをしていました。最初は楽しそうに走り回っていたのに、急に鬼ごっこをやめてブランコに走っていき、一人で遊び始めました。友達は

「え？ もうやめちゃうの？」

とびっくりして立ち止まりました。私は見ていて少し恥ずかしくなり、

「ちゃんと最後まで遊ばないとダメだよ」

と言いました。でも妹は全く気にしていませんでした。でも妹は、

「今はブランコがしたいもん」

と言って、全く気にしていませんでした。私はその時

「せっかく友達が一緒に遊んでくれてるのにな」

と、あきれてしまいました。

その日の夜、お母さんが私に言いました。

「妹は、遊びをやめたいわけじゃなくて、ただ、やりたいことが浮かぶと我慢できなくなるんよ。友達を困らせようとしてるわけじゃないんだよ。」

そのとき私は、妹の行動を変だからやめてほしいとしか思っていなかったことに気づきました。妹の気持ちを考えようとしていたことを反省しました。

妹は学校から帰ってくると、

「また先生に注意された」

とよく言います。ある日、

「私ってやっぱりだめなんや。何しても怒られる。」

と言ったことがあります。そのときの妹の顔は、泣くのを我慢しているようでした。

私は

「そんなことないよ」

と言ったけど、かける言葉が分かりませんでした。

ある日、家でトランプのババ抜きをしていたときのことです。妹は
「絶対勝つけん！」

と宣言して、真剣な顔でカードを引いていました。でも最後の最後で
負けてしまった瞬間、カードを机に投げてしまいました。私や家族は
びっくりして、しばらく言葉が出ませんでした。

学校でも同じようなことがあります。体育の時間にドッジボール
をしていて、妹のチームが負けると、自分をたたいたり足で床をドン
っとしたりして、

「もうやらん！」

と怒ってその場に座り込んだりします。そのたびに周りの子たちは
困った顔をして、気まずい空気になります。

妹は負けるのが嫌でたまらないのだと思います。でも、その気持ち
の強さが、時には周りの人との関係を難しくしてしまうこともあります。

妹は本当は、ただみんなと楽しく過ごしたいだけです。でも、自分

の気持ちや行動をうまくコントロールできず、まわりに迷惑をかけてしまうことがあります。そしてそのたびに、自分を責めてしまします。見た目には分からぬ障がいだからこそ、まわりに理解してもらうのは難しいのだと思います。

それから私は、妹に注意する前に理由を聞くようにしました。

「どうしてそうしたの？」

と聞くと、妹は

「勝ちたかったから」

と素直に答えます。私は、それもいいけど、こうしたほうがもっといいかもと伝えるようにしています。そうすると、妹の気持ちも落ち着くからです。

これからも私は、妹を守れる姉でいたいです。妹が安心して自分らしくいられるように、そして妹のように見えない困難を持つ人が少しでも暮らしやすい社会になるように、できることを続けていきたいです。相手の気持ちを想像し、思いやりを持って行動することが人権を守る第一歩だと私は思います。

人権とは、すべての人が人として大切にされることです。年齢や性別、障がいのあるなしに関係なく、一人ひとりの気持ちを大事にする

○無断転載禁止○　※本作品を広報誌等に掲載したい場合は、下記に御連絡ください。
松山地方法務局人権擁護課　TEL（089）932-0888（代表）

べきだと思います。